

授業改善プラン

1 年 教科 (国 語)

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2学期		3学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
国語への 関心・意欲・態度	・与えられた課題に対しては前向きに取り組む姿勢が見られる。一方で、「知りたい」「学びたい」という意欲に基づく能動的な取り組みはあまり見られない。	・ICT 機器を効果的に用いるなど、導入段階を工夫する。 ・協働学習や生徒自身が課題を設定し、解決する学習を授業に取り入れる。	・導入段階での ICT 機器の活用は一定の効果が見られた。 ・課題解決型学習は生徒の意欲を引き出すうえで効果的であった。取り入れるタイミングや回数を工夫しながら次年度も継続して行う。
話す・聞く能力	・他者の話を聞こうとする態度が育まれており、基本的な要点を押えながら話を聞くことができる。話し方においては単調な場面が目立ち、話の説得力が弱い点が課題である。	・良いスピーチ例を実際に見せ、スピーチにおける間の取り方などを具体的にイメージさせる。 ・具体的な数字等が説得力につながることを意識させ、実際に集めさせる活動を授業に取り入れる。	・話の強弱や間の取り方に関しては改善の余地が見られる。次年度はより明確にしたポイントを提示する等の取り組みが必要である。
書く能力	・一定量の文章を書くことができるが、文中に話し言葉が見られるなど課題が見られる。また、原稿用紙の使い方においても指導が必要である。	・文章を書く中で目立った話し言葉等を全体の場で繰り返しフィードバックし、改善を図る。 ・具体的な事例を用いながら原稿用紙の使い方を説明し、正しい使い方の定着を図る。	・話し言葉や原稿用紙の使い方の誤りについて全体で共有し、改善を図ることができた。一層の定着を図るため、次年度も継続して取り組みを行う。
読む能力	・短い文章であれば要点を押えながら読み取ることができるが、文章量が多い、時間の制約がある状況になると読み取りの精度が落ちる。	・短い文章の要点を、時間を制約しながら読み取らせるなど、実践的な活動を授業内に取り入れる。 ・文章に慣れさせるため、意図的に文章量の多い文学作品に生徒が触れる時間を作る。	・大まかな要旨を捉える力が身につけてきている。次年度は論の流れを捉える力を身に付けさせることで、精度の高い読み取りを目指していく。
言語についての 知識・理解・技能	・漢字の読み書きは概ねできている。文法事項に関しては基本的事項が定着しておらず、課題が見られる。	・漢字だけではなく、文法事項も小テストを実施し、生徒が意識して学習内容を復習する習慣を付けさせる。	・文法事項も小テストを行ったことで、知識の定着を図ることができた。次年度も継続して行うことで一層の知識の定着を目指していく。
授業改善の検証方法	・定期考査、実力テスト ・授業用ワークシート、ノート記述、小テスト	・定期考査、実力テスト ・授業用ワークシート、ノート記述、小テスト	・定期考査、実力テスト ・授業用ワークシート、ノート記述、小テスト

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2学期までの 成果と課題	1年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	・小学校までの学習内容を確認し、それを活かした授業を展開している。	・小学校での学習に付随した知識を伝えることで、生徒の学びに対する意欲を引き出せる場面が見られた。	・年間を通して、小学校段階での学習内容との比較を示すことで生徒の意欲を引き出すことができた。次年度は、学習の深まりを生徒が実感できるよう発展的な取り組みを行っていく。

授業改善プラン

2 年 教科 (国 語)

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2 学期		3 学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
国語への 関心・意欲・態度	・高い意欲をもって学習に取り組む姿勢が見られる。この意欲を活かして、課題解決型授業の展開や協働学習を取り入れた授業の展開など、様々な学習活動につなげていきたい。	・自ら課題の設定・解決をし、それを他者に説明する授業を学期に1回程度取り入れる。 ・場面に応じて協働学習を取り入れるなど、生徒の意欲をさらに引き出せるような取り組みを行う。	・課題解決型学習や協働学習は生徒の意欲を引き出すうえで効果的であった。取り入れるタイミングや回数を工夫しながら次年度も継続して行っていく。
話す・聞く能力	・要点を押えながら話を聞くことができる。根拠を踏まえた上で話をすることもできるが、緊張からペースが一定になるといった様子が見られるので改善を図りたい。	・生徒同士の対話を促すことで、話すことに慣れさせる取り組みを授業に取り入れる。 ・授業内に、他者の前で生徒自身が話す場면을意図的に設定する。	・他者の前で話す場面を設定したが、回数が少なかった。次年度は回数を増やすことで話し方の技術の向上を図っていく。
書く能力	・丁寧に文章を書き進めることができ、文章中に大きな誤りも見られない。一方で書くスピードに関しては課題が見られる。	・時間を制約した課題を設定し、生徒が速さを意識しながら文章を書ける状況を作るなど、実践的な練習を重ねられるようにする。	・速さを意識して書くことができるようになったが、表現上の誤りが見られる。速さと正確さの両立を図った取り組みを次年度は行っていく。
読む能力	・説明的文章において、概ね筆者の主張を捉えることができるが、各段落が果たす役割等については理解に課題が見られる。	・各段落の内容を要約させる、各段落に小見出しをつけさせるといった活動を授業内に取り入れることで、段落の内容を的確に捉えられるようにする。	・段落ごとの要点を踏まえながら文章を読み進めたが授業者主体の取り組みであった。次年度は生徒主体の取り組みとなるように改善を図る。
言語についての 知識・理解・技能	・漢字については高いレベルで読み書きができる。語彙力に関しても一定の段階にあるが、さらなる定着が望めるため、改善を図りたい。	・辞書を用いて言葉を調べさせるなど、生徒の語彙力を高められるような取り組みを意図的に授業内に増やしていく。	・辞書を用いて言葉調べを行う生徒の姿が見られるようになった。語彙力の向上を目指し、次年度も継続して取り組みを行う。
授業改善の検証方法	・定期考査、実力テスト ・授業用ワークシート、ノート記述、小テスト	・定期考査、実力テスト ・授業用ワークシート、ノート記述、小テスト	・定期考査、実力テスト ・授業用ワークシート、ノート記述、小テスト

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2 学期までの 成果と課題	1 年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	・小学校段階での学習内容を確認し、理解内容をさらに深められるような授業を展開している。	・小学校段階での学習を振り返ることで、生徒の学習に関する意欲の向上が見られた。 ・古典においては、学習内容が人物の心情理解にまで発展するなど理解内容の深まりが見られた。	・小学校段階、中学校一年生段階との学習内容の比較を行うことは生徒の学びに対する意欲を引き出すうえで効果的であった。次年度も継続して行っていきたい。

授業改善プラン

3年 教科（国語）

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2学期		3学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
国語への 関心・意欲・態度	・興味、関心がある事柄に対しては高い意欲をもって授業に取り組むことができる。一方で思考を必要とする課題に対しては取り組み方に課題が見られる。	・生徒が段階的に学習に取り組めるように、視覚教材や聴覚教材を取り入れるなど、教材選定や授業の展開を工夫する。	・生徒が興味を引くような教材を用いながら授業を展開した。それぞれの生徒や集団に適した教材の工夫は今後も継続して行っていく。
話す・聞く能力	・他者の前でも堂々と話ができるなど、話す力がある。一方で場面に応じた言葉の選び方や、話の説得力に関しては課題が見られる。	・具体的な数値等が説得力につながることを体感させ、実際に集めさせる活動等を取り入れる。 ・場面に応じた言葉の適切な使い方を、具体例を交えながら繰り返し伝えることで定着を図る。	・適切な言葉遣いについて意識させる取り組みを行うことができた。 ・明確な根拠の示し方については、実例を示すことが効果的であったため次年度も継続して行う。
書く能力	・文章を書くことに対する抵抗感が見られない。文中での正しい言葉の使い方を身に付けることで、更なる向上が図れる。	・話し言葉や文法的な誤りについては、具体例を交えながら説明することで、改善を図る。 ・文章例を書き写す取り組みを取り入れ、生徒が正しい文章に触れられる場を作る。	・作文を書いた直後に解答例を示すことで生徒が正しい文章に触れることができた。解答例を生かした課題の設定など、教材の工夫を次年度も継続して行う。
読む能力	・量の多い文章を読むことに課題がある。主張や考えが書かれている部分や、実験結果等が書かれた部分を確実に読み分けるなど、構成や展開を意識した読み方を身に付けさせる必要がある。	・各段落に書かれていることを短くまとめるなど、要点を押えながら読み進める活動を授業内に取り入れる。 ・段落同士の関係性については授業者が丁寧な説明を行うことで、生徒の理解へつなげていく。	・要点を押えながらの読み取りは、内容理解を図るうえで効果的であった。生徒が自身の力で要点を捉えられるよう、発問やワークシートの工夫を行っていく。
言語についての 知識・理解・技能	・漢字の読み書きに関して一層の定着を図る必要がある。	・授業内での小テストを継続して行う。間違えた漢字に関しては振り返りが行えるような時間を設定し、確実な定着を図る。	・一定の漢字学習の時間を確保することで「読み」「書き」それぞれで知識が定着している様子が見られた。次年度は文法事項の知識定着や語彙力向上を図る取り組みを積極的に行っていく。
授業改善の検証方法	・定期考査、実力テスト ・授業用ワークシート、ノート記述、小テスト	・定期考査、実力テスト ・授業用ワークシート、ノート記述、小テスト	・定期考査、実力テスト ・授業用ワークシート、ノート記述、小テスト

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2学期までの 成果と課題	1年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	・小学校段階での学習と関連性が深い単元に関しては、振り返りを行いながら授業を展開している。	・小学校段階での学習を振り返ることで、より効果的な復習事項を選定することができた。	・小学校段階及び、中学校1・2年生段階での学習内容を比較しながら授業を進めることができた。9年間のまとめの意識を生徒がもてるような取り組みを次年度は行っていく。